

学校の概要

1 本校のステイタス等

本校は、ロンドンの日本クラブ会員日系企業運営の「日本人学校有限会社」により「全日制の義務教育学校」として設立され、日本の文部科学省により認定された在外教育施設であると共に、教育省より認定を受けた「私立学校」である。

本校の教育課程は、文部科学省の定める学習指導要領に準拠しつつ、在外教育施設としての特色を加味したカリキュラムによって構成されている。

また、本校教員は、文部科学省によって派遣された「派遣教員」、現地ロンドンにおいて採用された「現地採用教員」、そして英会話を担当する「英語・外国語B（英会話）講師」からなっており、各教員の指導力を生かした多彩な教育が可能となっている。また教科書は、日本において検定を受けた「教科用図書」（いわゆる教科書）を使用している。

本校の財務は、日本国政府の補助金と、在校生から徴収する入学金・授業料によって運営されており、この面に於いてはまさに私立学校である。

学校の経営は、日本人学校有限会社により行われ、その下に設置されている学校運営委員会が実務的な運営を行っている。校長は、理事会、学校運営委員会の構成員であり、教育面の運営を任されている。また、事務局長がその事務局を任されている。

2 本校を取り巻く環境

(1) 日本の教育の動向

平成29年3月に新学習指導要領が公示され、小学校では平成32年4月1日から、中学校では平成33年4月1日から施行される。新学習指導要領においても、その理念「生きる力を育む」は変わっていない。

「生きる力」とは、

- ① 基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ② 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性
- ③ たくましく生きるための健康や体力、である。

今回の改訂では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を目指し、まずは「何ができるようになるか」を明確化した。つまり、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理した。そして、我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子どもたちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要と捉え、小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法ではなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫・改善していく必要があるとされた。そのため、教員が授業準備などを行う時間を確保するために、義務標準法改正による計画的な教職員定数の改善などの条件整備や運動部活動ガイドラインの策定による業務改善などが一層進められることとなった。

教育内容の主な改善事項としては、①言語能力の確実な育成、②理数教育の充実、③伝統や文化に関する教育の充実、④道徳教育の充実、⑤外国語教育の充実、⑥体験活動の充実、が挙げられ、そのような学校教育を通じて子どもたちに育てたい姿を、新しい学習指導要領が役割を担う2030年ごろまでとその

先の社会の在り方を見据えながら、以下のように描いている。

- ① 社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。
- ② 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって多様な人々と協働したりしていくことができること。
- ③ 変化の激しい社会の中でも、感性を豊かにはたらかせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

(2) 本校の英国内での状況と海外子女教育の現況

設立以来児童生徒数の増加に伴って二度の移転を経験し、ハバーダッシュヤーズ・アスクス・スクールの女子校として1900年に建てられた現在のアクトン校舎が3番目の校舎である。移転後、体育館、中学部棟、家庭科室棟などが増築・改築され現在に至っている。

児童生徒数は、日本経済の高度成長の波に乗って増加の一步をたどり、一時は1000人を超えたこともあったが、その後の経済状況の後退とも相まって減少の一途をたどり300人台まで減少した。児童生徒数の減少は学校の財務状況の悪化と直結することから憂慮すべき状況となり、中期5カ年計画、新中期5カ年計画の中で、魅力のある学校づくりや児童生徒数の予想をたて、財務の健全化を図るべく、授業料の計画的な改訂と教員・事務局職員の削減を行ってきた。ここ数年、児童生徒数は、350名台で推移しているが、経済の動向を受けて今後も減少することが予想される。また、昨今、海外に赴任する保護者が、異文化理解や英語での教育を求める傾向にあり、現地校や英語での授業がほとんどを占める国際学校を選択する割合が増えてきている。さらに、日本人学校出身者では出願できない英語での帰国入試枠ができるなど、国内の学校の帰国子女の受け入れ態勢が整ってきたことも現地校や国際学校を選択する理由の一つとなっている。

3 本校教育の特色

既に述べたように本校は、日本と英国の認定を受けた教育施設として、特色ある学校づくりを目指し、幅広い教育活動を展開している。主な特色ある教育活動は、

- ・ ロンドンタイム(総合的な学習の時間)
- ・ 現地校交流
- ・ 英語・外国語B(英会話)授業(小学部週3時間、中学部週2時間)
- ・ 運動会
- ・ 修学旅行(小学部6年 北ウェールズ 中学部2年 スコットランド)
- ・ 自然体験教室(小学部5年 イングランド西部)
- ・ 写生大会
- ・ 文化祭
- ・ 生活科見学(小学部1・2年)・ 社会科見学(小学部3～6年)
- ・ 遠足・校外学習(中学部2年以外)
- ・ 職場体験学習(中学部2年)
- ・ 進路講演会